

平成20年度 かんだ連雀 事業報告書要約

平成20年度の概況

開設5年目を向かえ、安定した運営を目標に、サービスの質の向上をめざした。

- 特別養護老人ホーム 定員55名
 - 前年度の引き続き、平均介護度4.5と重介護状態が続き、嘱託医、看護、近隣医療機関との連携を強化。施設での看取りや家族の希望をチームで検討するなど、個別援助としての幅が広がった。年間稼働率 93.1%
 - 年度途中で退職者が多く(8名)、人材不足を派遣職員にて対応したが、介護力の質の維持が困難であった
- 高齢者在宅サービスセンター
 - 短期入所生活介護(ショートステイ) 定員5名 空床2名 年間稼働率 112% 平均介護度3.8
 - 通所介護(デイサービス) 定員15名 年間稼働率 74.7% 平均介護度2.4
- 千代田区神田地域包括支援センター
 - 困難事例については専門職との協働や、地域との関係者と良好な連携を図った。
 - 虐待防止に関する計画的な活動の一員として、ワーキングチームに参加した。
 - ケアマネ連絡会の運営委員や施設の運営協議会のメンバーとして活動。
 - 神田で元気がながいき教室を年6回開催。介護予防ケアプランを 93件作成。
 - 特定高齢者のケアプランを 33件作成した。
- 居宅介護支援センター
 - 地域包括支援センター、高齢者在宅サービスセンターと連携し、困難ケースや、緊急対応の受け入れをよりスムーズに可能にした。
 - サービス担当者会議の開催により、各事業所と連携し、住み慣れた地域で暮らし続けることへの支援をした。
 - ちよだケアマネ連絡会運営委員として、千代田区のケアマネの資質向上の手助けをした。
- 千代田区宮神田淡路町高齢者住宅
 - 居住者が24時間安心した生活が続けられることを目的とし、居住者間の親睦・閉じこもり防止・相談業務等の強化・地域交流に努めた。
 - 入居世帯 21世帯(22名) 茶話会・地域交流・コミュニティ活動 年間 17回
 - 相談業務 年間 131件 緊急対応 年間 47件 センサー対応 年間 30件

平成20年度の課題

- 事故防止と衛生管理
 - リスクマネジメントの強化・身体拘束廃止・感染症対策等
- 法令順守
 - 法令の理解・法令に沿った事業計画・事業活動
- 人材の確保・育成・定着
 - 研修の充実—法人事務局主催研修、外部研修、施設研修
 - OJTの推進とチャレンジプランの活用
- サービス評価の取り組み
 - 法人自主評価の実施—数値を踏まえた検証
 - 第三者評価受審
 - 千代田区オンズパースンの取り組み
- 地域福祉
 - 地域交流
 - 町内会行事との連動
 - ボランティア、実習生の受け入れ
 - 社会福祉協議会
 - いきいきサロン、ふれあいサロン参加・協力
 - 運営協議会の開催
 - 地域へのアピールと相互意見交換

		サービス利用・提供状況	平成20年度事業計画の執行評価
運営・管理	事務局担当	1 経理 業者支払い業務等本部集約業務と施設業務が明確になり、効率的に連携が図れた 事務の核職員の不在の中、本部事務局との連携の中、無事年度決算業務を終えることができた 2 請求 家族支援システムの導入も本部連動の中、無事に稼働できた。 本部集約によるスケジュール管理が明確になった 3 勤怠管理システムと給与計算が連動し、業務の効率化が図れた	1 エコプロジェクトをつくり、全職員が工夫しコスト管理や節約に心掛けた 設立5年経過し、メンテナンスが必要な箇所もはじめ、修繕計画も課題である。 2 家族支援システムを導入した 当年度コスト増も次年度以降は経費減見込
	サービス向上	1 神田事業所事業推進会議を軸とする岩本町ほほえみプラザ連携強化 同じ法人のサービス事業として、成果から課題・苦情まで、様々な情報共有し、協議しあい 区民に対して質の高いサービスの提供を目指した 2 嘱託医、近隣医療機関との連携を強化:ご利用者の状態に変化が生じたとき、早急にご家族、嘱託医と相談・協議し対応した。とりわけ終末ケアの対応・体制も確認できるようになった。 3 サービス自主評価を実施し岩本町合同で意見交換会を開催し、サービス向上に努めた 第三者評価を受審のほか、運営協議会も年3回開催し、地域および客観的意見を参考にした。	1 サービスの質の向上が図れた。 2 施設運営協議会は年間3回開催 3 苦情には早急に対応した。 4 第三者評価でも高評価を得た。 5 海外からの研修生受け入れ。 6 施設内研修体制の強化をした。
	地域包括センター	1 相談に対し、速やかに対応し、困難事例については内外専門職の連携のもとで対応した。 2 特定高齢者へのアプローチは参加意識を高める工夫をし、初回、終回で状況確認して評価にあたった 3 区の虐待ゼロワーキングチームに参加し、実態調査、研修会、講演会の運営等に当たった。 4 ケアマネ連絡会の運営委員や施設の運営協議会等内外の会議に出席し地域の実情を伝えた。 5 神田で元気がながいき教室を年6回、おたよりを3回発行した。サービス未利用者にも郵送した。 6 要支援1.2の方に介護予防ケアプランを 93件作成した。	1 チームアプローチ体制で対応した。 2 特定高齢者プランは33件作成した。 3 区全体で計画的に進行している。 4 ケアマネとの同行などきめ細かく対応した。 5 5月は53名、1月は52名の参加があった。 6 総合相談と介護保険の流れをスムーズにした。
支援	居支	1 地域包括支援センター・デイサービス・ショートステイと情報共有し困難ケースや緊急対応を受け入れた 2 ケアマネ3人から2人体制にとり、利用者には、丁寧な説明・介護保険ではできないところの制度の隙間を埋めるような支援を調整し、住み慣れた地域で暮らし続けることを支援した。 3 ターミナルケースや医療ニーズの高いケースを受け入れ、医療との連携を図った取組みをした。 4 ちよだケアマネ連絡会運営委員としての活動に参加し、情報収集し、意見を積極的に発信した。	1 同法人内にサービス部門・地域包括がおかれているメリットを活かすことができ、連携のとれた支援ができた。 2 居宅内の情報は、定期会議で確認しあった。
	デイ	1 稼働日 年間310日 延べ利用者3,478人 年平均稼働率 74.7% 月平均利用者数 289.8人 2 各委員会・研究会に参加し、他部署との連携、専門知識の習得に努めた。 3 夏祭り・敬老会・もちつきなどの季節行事を、今までの形にとらわれず、楽しく・賑やかに行えた。	1 通所介護計画書の定期的な更新・見直しを行った。 2 常勤・非常勤問わず、研修に参加しデイ職員全体としてのスキルアップを図った
ホーム	特養	<ホーム> 1 個別援助の徹底:居室担当を中心に、より個別的な援助を行うことができるように徹底を図った。 2 職員体制を拡充し、職員確保を図った。又フロア担当を固定せず、他のフロア業務も行なえるよう取り組んだ 3 より専門的に、会議技術などの質の向上を図るため、研究会や委員会を中心に研修を行なうなどして専門性を高める努力をした	1 個別援助計画は立てたものの、実際援助への反映には課題が多かった。 2 派遣職員などの活用により体制の確保はできたが、援助の質において継続することが困難であった。 3 各研究会を中心に、統一した援助や考えが出来るような研修に取り組んだ。
	介護	<ショートステイ> 1 個別援助計画の継続と書式の見直し:個別援助計画の継続を行いながらも、書式を見直し反映させることで、更に滞在中を楽しんでいただけるように努めた。 2 滞在中の空間整備:季節を感じていただく工夫や食事を楽しんでいただく工夫など環境整備に努めた。	1 個別計画の書式見直しが出来ず個別の目標などを反映できなかった 2 装飾の工夫を行うことで、利用者からは好評を得た。
連携	看護	1 日常生活から看取りのケアまで、体調の変化に適切に対応するよう嘱託医と連携して取り組んだ。 ・担当者会議では身体状況を集約し、個別援助・看取りケア・マッサージ師との連携に取り組んだ。 ・急変時には嘱託医と連携し、ご家族への説明や医療機関へ繋げた。 2 感染予防対策:研修、ポスター等による啓蒙活動・予防接種・健康状態のチェック等を実施した。 3 職員の健康管理及び知識技術の向上:定期健康診断・検便の確実な実施に努めるとともに各種研修(基礎看護、口腔ケア、感染予防、褥瘡予防、陰部洗浄、異物除去等)を開催した。	1 嘱託医との連携が密になり、個別援助・看取りケア・マッサージが行われた。 「急変時における延命等に関する確認」が次年度への継続課題。 2 感染症の罹患は無かった。 3 職員のレベルアップへの意識は高い。
	食事	1 一日提供食数 173食 年間提供数 63248食 2 月に一回「井の日」や「ちらしの日」を取り入れ食に楽しさを添えた。 3 フロア職員の協力のもと、嗜好・残菜調査を行い、利用者ニーズの把握に努めた。 4 食事研究会でソフト食の試食会を行い、行事食や一部通常の食事に反映させた。 5 危険な食品が出回る中、業者への証明書提出を求めたり、危険食品を排除するなどの対応を行い安全な食事の提供を努めた。	1 職員体制や業務の見直しを行い、会議への参加や状況を見に行く体制を整えニーズの把握に努めた 2 調理レシピの見直しを行い、レシピの整備を行った。 3 ソフト食の更なる研究と食事形態の見直しを次年度の課題としたい
高齢者住宅	1 千代田区からの受託事業、かんだ連雀・神田地域包括支援センター・区役所など各関係機関と連絡をとり、個別対応の強化に努めた。 2 具体的な取り組み:居住者間の親睦・閉じこもり防止などを行うほか、地域交流(淡路町2丁目町会)を実施した。 3 お話の傾聴、物品修理、緊急対応などに努めた。	1 高齢者住宅は平成16年2月に設立され、5年を経過した。ほとんどの方が一人世帯のため、茶話会・地域交流・月次事業を通し、居住者間の親睦や閉じこもり防止に努めた。	